

概況総括：『好調を持続しているが、人手不足が更に深刻化している』

【調査概要】

1. 今期(平成 29 年 10-12 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は、「売上高」45.1(前回 32.3)「受注単価販売価格」5.6(前回 3.5)、「収益状況」19.2(前回 10.3)、「資金繰り」12.3(前回 8.5)「取引条件」3.2(前回 0.0)「操業率」34.3(前回 23.6)、「受注残」11.5(前回 8.7)「生産設備」27.3(前回 21.3)、「来期受注」23.1(前回 20.0)、「来期採算」10.5(前回 6.2)「来期資金繰り」10.1(前回 6.3)の 11 項目(前回 10 項目)となった。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は 45.1(前回 32.3)と更に増加し、また、その他のプラス項目すべてが前回数値よりも上昇しており、リーマンショック前の平成 18 年 7-9 月期以来の高水準となっている。
一方、「原材料単価」は▲57.0(前回▲44.4)と上昇している。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」34.3(前回 23.6)、「受注残」11.5(前回 8.7)「生産設備」27.3(前回 21.3)と 3 項目全てが上昇しており、残業等での対応が増えている。引き続き人員確保が急務であり、ロボット等による生産設備の自動化・省力化対策が求められる。
3. 来期については、「来期受注」23.1(前回 20.0)、「来期採算」10.5(前回 6.2)、「来期資金繰り」10.1(前回 6.3)と 3 項目とも上昇しており、引き続きの好調さが伺える。
4. 「企業経営上の悩み」については、今年に入り一番の悩みとなった「人材不足」が 51.2(前回 46.2)と半数以上の企業が答えており、人手不足が更に深刻化している。
5. 今回の調査では、全ての項目が上昇しており、好調を持続している。工作機械や荷役運搬機械、半導体関連装置等をはじめとして、ほとんどの業種が順調に推移している。
しかしながら、人手不足が更に深刻化しており、現人員の育成を図るとともに、女性や高齢者、外国人実習生等の人手確保やロボット等の自動化・省力化設備の導入などが喫緊の課題となっており、企業業績に影響を及ぼしかねない状況となっている。
来期については、北朝鮮情勢をめぐる経済動向に留意する必要があるが、先行きは明るい傾向にあり、好調を持続すると考えられる。

